

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com>

FB 港北区災害ボランティア連絡会

80号

2019年10月



\* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

## 猛烈な風台風となった15号台風

### 市内全区で被害、高田東でも！

千葉県を中心に大きな被害を生んだ台風15号ですが横浜市内でも被害が発生しています。金沢区の工業団地では高潮が発生して、その復旧のため呼びかけに応じたボランティアが活動する場面もありました。阪神淡路大震災では個人家庭へのボランティア活動しか行いませんでしたが、2004年の中越地震では商店が早く回復しないと地域経済の復興にならないという認識が生まれ、個人商店へのボランティア活動も行われました。災害時には自分たちだけではどうしようもない被害が発生するわけで、だからこそボランティアの力が必要になります。災害ボランティアセンターを運営する際はできるだけ柔軟に対応することが求められます。

また今回横浜市内では災害ボラセンの立ち上げには至りませんでした。どのような被害が発生したかの確認をすぐに行うのは大切なことだと思います。港北区ではネットで会員から情報を寄せてもらい、各所で停電が発生したことを確認しました。幸い千葉県のような長期ではなかったため、日常生活に不便が生じませんでした。いざというときの備えを再確認したいものです。定例会で配布したチェック表を載せますので再確認してみてください。（3ページ）

（宇田川）



隣地の大木が倒れ、壊れたグループホーム、成田市

#### \* 災害時に必須の罹災証明書

地震や風水害等で被災した家屋や建物などの被害の程度を証明する書類。市町村が現地調査をし発行する。被災者支援の資金の給付や融資、税金や保険料の減免等の申請に必要な基本的な重要書類。資料として**被災状況を写真に撮っておく事はとても重要**である。自治体は速やかに罹災に罹災証明書を発行する必要があるが、最近の公務員削減の動きで災害時に大量に発生する事務処理が追いつかないといった側面があちこちの自治体で見られる。そのために被災地の職員相互派遣協定等を他の自治体と結ぶよう義務付けられている。住宅被害の損害割合が50%以上の全壊、40%以上50%未満の大規模半壊、20%以上40%未満の半壊、20%未満の1部損壊の4区分がある。（宇）

## 災害時の液体ミルクを考える

災害はいつやってくるかはわかりません。そんな時「災害弱者」である乳幼児は取り残されやすくなっています。東日本大震災と熊本地震を経て、災害時に液体ミルクが必要だといった声が高まり、2018年8月の法整備によって国内の製造・販売が可能になりました。お湯で溶かす必要がなく、常温で6ヶ月保存可能となると、災害食としての期待が高まりますが、課題もたくさんあるようです。

私が熊本地震のサポートで益城町体育館に行った時のことです。発災から3週間後、物資は多くあるけれどまだまだ整理ができていなかった頃です。当時、支援物資の倉庫には、たくさんの「余剰食品」がありました。その1つが「乳児用液体ミルク」でした。「なぜこんな便利なものを使わないんだろう？」そんな疑問がありました。被災者は「普段から食べ慣れた（飲み慣れた）いつもの（食べ物・飲み物）を好む」ということでした。液体ミルクは、その時点では「いつもの」ものではなかったのです。私の子どももミルクをあまり好まなかったもので、この気持ちはよくわかります。また、子どもも環境の違いは感じているでしょうから、なかなか飲んでくれないということもあるでしょう。日ごろから「液体ミルク」を「いつもの」にしておく必要性を感じます。液体ミルクは1本200～250円程度、保存期間は未開封のもので



半年です。今では使い捨て用の哺乳瓶もあります。1本350円程度です。粉ミルクなどと比べ

ると価格は高いですが、安全には変えられないところがあります。

また、乳児にミルクを飲ませるためには哺乳瓶や乳首が必要になります。しかし、これらも消毒が必要で

す。過酷な環境の中では消毒など難しい場面も多くなることと思います。そんな時



に役立つのが「紙コップを使った授乳（カップフィーディング）」です。まだ口元にそっとコップを添えて傾け、赤ちゃんがすすむのを待ちます。流し込まないようにし、飲むだけ与えるのが大切です。災害はいつ来るのかわかりません。子どもの年齢に応じて、また子どもの個性によって対応は変わってきます。今回はミルクにターゲットを当てましたが、これは子どもも大人も同じこと。「いつもの」を多く備蓄しておくことが大切なことであると感じました。

(横浜北YMCA 山中奈子)

## 神奈川新聞の「減災新聞」

神奈川新聞は東日本大震災以降、「減災新聞」を毎日曜日掲載しています。渡部渉記者が中心に作成していますが、自助のヒント、支



える・つながる、知る・深める、ひと・もの・まちなどの欄もあり充実したものとなっています。県内だけでなく、全国の災害や過去の災害からの教訓など、多岐にわたる内容は防災ボランティア必読の内容です。神奈川新聞を取っていない方は日曜日だけでも買ってみてはどうでしょうか。

(宇田川)

# 災害時を乗り切る

## チェック表

台風15号の被害は多くの教訓をもたらしました。特に長期にわたるライフラインの途絶に耐えられる備えは必須です。それがなければその後のボランティア活動もできません。チェック表で自宅の備えを確認しましょう。

灯り電池	懐中電灯など 乾電池 携帯充電器 (ソーラー、手回し、車のソケットなど)	台 (タイプは) 本 台 (充電タイプ)
ガス	カセットコンロ ガスボンベ (3, 5kw のコンロでは、強火では1時間で1本消費)	台 本
水道	水の備蓄 水運搬道具 (大きいと重い。小さいと運ぶ回数が増える)	ℓ (一人一日 3ℓ× 家族数×日数) ℓ入り
トイレ	トイレパック トイレットペーパー	回分 日分

\*備蓄品にはすべて消費期限があります。期限切れだと危険性が考えられる(ガスボンベなど)を考え、食品以外もローリングストックをしておきましょう。(宇田川)

## ボラ連の災害食講座

港北ボランティア連絡会(ボラ連)主催の災害食講座が城郷小机地域ケアプラザで開催されました。昨年の仲手原自治会館で行った講座から、体験者の口コミで徐々に広まっていったポリ袋クッキングです。この方法自体は阪神淡路大震災以降加熱調理用ポリ袋の開発が進み、東の東日本大震災の時は被災地以外で

も、停電の影響などで広く普及しました。それはネットでの情報拡散のおかげです。しかし中にはポリ袋なら何でも良いように書かれている内容もあり、ジップロックでの調理法が取り上げられると、製造元の旭化成は「チャック部分は耐熱性がないので使わないように」とホームページで呼びかけています。この調理方法で大切なのは加熱調理に耐えられる高密度ポリ袋を使うことです。(ネット通販で買えます)



当日は意外と簡単に、しかも美味しくできることに皆さんびっくり。最初は見ているだけだった他団体の方々も面白さにつられて参加し、「帰ったらやってみるわ」との声も出ました。当日1番評価が高かったのはサバ缶カレーでした。この調理法のメニューは今やクックパッドにも載っていますが、残念なのは使う袋への注意書きが見当たらないことです。正しい調理法を連絡会メンバーが広めていきましょう。(宇田川)

## 【災害と損害保険 第三回】

### 「風災」の恐怖

大規模災害が発生すると、損害保険会社は基本的に「特別チーム」を編成し、早期の損害調

査・保険金支払い体制を構築し、以下の手順でアプローチをします。

1. 災害の被災地域を各種情報で特定
2. 「住所コード」を用いて、保険金支払い対象となる可能性のある契約を抽出
3. 契約情報から、社員が被災地に行き、現場を確認し損害を確認
4. 契約者と連絡を取り、保険金の請求手続きを支援

場合によっては、避難所を訪問し「知人」と名乗り面会し、上記3・4を実施します。保険の加入を周りに知られることを嫌われる事も多く、保険会社とは名乗らず面会をします。したがって、多くの大規模災害では「保険加入の有無」は意識せずとも、損害保険会社から連絡を受け取ることができます。

### 「風災」は地震と異なる ＝保険会社への通知が必要

水害・地震・津波などは、「面」で被害が生じます。だからこそ、上記の1～3が損害保険会社単独で行うことが可能です。ところが「風災」は、損害が飛び飛びに発生します。特定の地域が「面」で被災することは少なく、また被害状況も大きく異なってしまいます。

- ・隣の建物が風を防いでくれたから、被害がなかった
- ・ビルに挟まれていたために、風が吹き抜けて大きな被害を受けた
- ・木が倒れたために、屋根が壊れたなどなど

契約者からの通知がない限り、被害状況がつかめず、保険金の支払い処理が長期にわたることもしばしばです。

これは風災では自治体でも被害状況の確認に、非常な手間と時間がかかることを意味します。被害状況がつかめない＝救済の手が届かない、ことを意味します。今回の台風15号がそうでした。

日本の災害時のBCPは「地震」中心に考えられており、社会インフラとしては「電気→水道→ガス」の順で復旧するという「暗黙の了解」が存在しています。昨年の台風21号、今年の台風15号による電気の・通信の大きな被害は、「想定の外」だった可能性があります。

電気がこない＝電話・ネットなどの通信手段が絶たれる＝疲憊状況の連絡ができない＝救済の手が届かない、大規模な風災の怖さが、こ



ブルーシート掛けには技術が必要。高い技能を持ったボランティアが育ってきている（鋸南町）

こにあるということになります。

（中島一郎）

#### 編集後記

☆地球温暖化が災害を多発させています。私たちの生活を見直すことが防災につながると実感させられる最近です。（宇田川）

☆台風15号で9月9日の夜中の3時頃から朝の8時頃まで停電しました。短時間でも、朝は日常生活に不便を感じました。（室伏）

☆「損害保険」についてマスコミもコメンテーターも理解していないことに、愕然としている今日この頃です。損害保険会社の努力不足なのでしょうか。（中島一）

☆千葉県被害に心を痛めたところ、台風15号の風激しく地震並みの揺れでした。防災に気を入れ直すよう言われたようでした。（付岡）

